

立川市第6次生涯学習推進計画
令和4年度取組状況の進捗評価表
(令和5年度実施)

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-1-① 市民ニーズにこたえる事業の推進
目的	学びを求めるすべての市民が、学びたい内容を、学びたい方法で、学びたい場所で学べるよう、多様な学習機会を創出します。また、市民のニーズを掘り起こしたり喚起したりするような事業を展開します。
関係する主な事業	●市民交流大学運営事業 ●地域学習館事業
取組状況 4年度	市民企画講座：開催数43件、参加者数1,902人（令和3年度開催数37件、参加者数1,483人） 団体企画型講座：開催数23件、参加者数1,285人（令和3年度開催数27件、参加者数1,737人） 行政企画講座（開催数429件、参加者数62,588人）（令和3年度開催数385件、参加者数32,662人）
事業の成果・課題 今後の方向性	<p>【成果】たちかわ市民交流大学の柱のひとつに位置付けている、市民主体の市民企画講座を、市民参画組織の市民推進委員会が市民目線で展開しました。また、地域の組織、サークル、団体等と連携して実施する団体企画型講座、地域学習館運営協議会が実施する地域活性化講座などの行政企画講座を開催し、市民ニーズに即した学習機会を提供しました。</p> <p>【課題】市民交流大学事業全般において、年齢等に関わらず市民の誰もが、生涯に渡り学習機会を享受できる環境を整えていくことが継続した課題です。</p> <p>【今後の方向性】市民と行政が真に協働して講座を実施する仕組みは、他自治体を見ても画期的です。今後も、市民力で作る生涯学習社会の実現のため、講座の内容面の充実とともに事業の発展を目指していきます。市民推進委員会は発足して14年が経過し、委員の高齢化が進んでいます。今後も継続して市民目線の講座を届けるため、特定の市民推進委員に過度な負担がかからないような働きかけや効果的な入会案内の周知等、活動しやすい環境づくりや新規入会者の増加につながるよう支援していきます。</p>

2. 前年度のコメントに対する取組

3年度 （抜粋） 総評	市民推進委員の高齢化が進んでいることから、活動しやすい環境づくりや若年層の登用・意見の取り込みについて、オンラインによる配信など具体的に検討する必要があります。また、市民推進委員だけでなく受講者の年齢層の変化に対してもニーズの検証を行い対象者を絞るなど、より魅力的で参加しやすい講座設定が求められます。
4・5年度 内容 取組	市民推進委員会については、令和5年度に会長が代わり、新しく40歳代の委員が加入し、サポーターが委員と共同で講座企画ができるようになるなどの受講者の年齢層の変化に対して対応するための新しい動きが見られます。 一方、動画の配信等、オンラインの活用については著作権など様々な課題がありますが、この課題解決のため、5年度にデジタル担当を発足させました。デジタルデバインドなどの問題もある中、デジタルでの発信の必要性を含め情報発信の方法などの検討を進めています。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	市民推進委員に多様な世代が参画することは評価できます。新しい動きが新しい展開になることが期待されます。会員が増えるよう募集に向けての研修会を開催してはどうでしょうか。市民の団体として市民推進委員会・市民リーダーの会が活動しやすい環境を整え、時代や必要に合わせて質の高い事業をわかりやすく発信していくなど、市民に寄り添い協働して、学習機会を提供することが望まれます。感染症予防対策を講じ、各講座を無事実施できていますが、会場に出向かずに自宅等に居つつ学びが共有できるオンラインの活用については課題解決を急ぎ、ハイブリット配信で市民のニーズに応えることを望みます。併せて、デジタルデバインドの解決のために鋭意取り組むことが重要です。
----	--

4. 評価

評価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の 評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-1-② すべての人が学べる機会の提供
目的	時間的制約や障害の有無、年齢や性別、国籍の違い、経済的格差などにかかわらず、すべての市民が学ぶことができるよう、さまざまな方を対象とした学習機会を提供します。また、障害のある方が講座などに参加される際の情報保障や、保育付き講座を推進します。
主 関 係 す る 事 業	<ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">● 青春学級事業 <li style="margin-right: 10px;">● 成人対象事業 <li style="margin-right: 10px;">● 生涯学習活動推進事業 <li style="margin-right: 10px;">● 高齢者対象事業 <li style="margin-right: 10px;">● 子ども対象事業
取 組 状 況 4 年 度	障害者理解講座等：開催日数16日、延べ参加者数105人（前年度：同25日、同80人） 寿教室：9教室、開催日数331日、延べ参加者数8,361人（前年度：同285日、同6,595人） 家庭教育講座：開催日数26日、延べ参加者数371人（前年度：同21日、同277人） 青春学級：登録人数52人、開催日数71日（前年度：同54人、同50日） いきいきたちかわ出前講座：開催20講座、延べ参加者数182人（前年度：同14講座、同108人）
事 業 の 成 果 向 向 性 課 題	<p>【成果】新型コロナ感染症も3年目になり、換気、手指消毒、マスク着用などウィズコロナに向けて対策を取りながら通常年に近づいた活動が実施できました。寿教室については、前回中止した隔年開催の「寿教室芸能フェスティバル」を開催とするなど継続して開設・運営し、健康づくりと生きがいの創出を中心としたメニューを提供し、高齢者の社会参加を促進しました。また、平和・人権学習、子ども対象、多文化共生・国際理解などのテーマごとにプロジェクトにして取り組み学習機会の提供ができました。青春学級事業は、委託化により専門的な活動としての充実度を増していますが、コロナ禍の為昨年度同様に2グループに分けるなど感染症対策をし、ハンドベル演奏や相談業務を実施した他、保護者の要望の高かったバスハイクを実施しました。</p> <p>【課題】日本語を話せない人たちや障害者が参加可能となる講座やイベント開催が求められていますが、たちかわ市民交流大学事業の中では、一部の講座に限られています。</p> <p>【今後の方向性】多様な人々が学習機会を享受することができるよう環境を整え、引き続き取り組みます。</p>

2. 前年度のコメントに対する取組

3 年 度 総 評 (抜 粋)	多様性を重視し、年齢や障害の有無に左右されない平等な学習機会の提供に尽力されていると思います。引き続き“出来得る限り可能な範囲”の配慮をした取組を推進していただけるように、意識するとともに体制づくりについても検討を行ってください。
4 ・ 5 年 度 取 組 内 容	令和4年度では障害者理解事業である「誰でもコンサート～ヴァイオリン演奏とお話し～」や「アール・ブリュット立川～高松の風」を多文化共生・国際理解事業では「地域で取り組む外国人の子育て支援」講座を実施しました。令和5年度も引き続き事業を行うとともに、職員はじめ生涯学習事業関係者への参加を促すなど共通理解への一助としていきます。 一方で、障害者に対する専門的な知識を有する職員が不在なため、青春学級などの事業を進める上で課題となっている状況が続いております。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	コロナ前のレベルに戻れるよう学習機会が提供されたことは評価できます。おおむね各世代を対象とした講座を開催できていますが、多様性を視点に、合理的配慮も含め誰でもが参加しやすい諸条件を、一層整えていくことに努めて欲しいです。保護者向けに開催されている「家庭教育講座」は不登校などの問題が先鋭化する現代にあつて、若者たち向けの学習機会の確保も重要ではないでしょうか。障害者理解事業などに力を入れて展開していることは評価できますが、障害のある方について専門的な知識を有する職員がいないことは課題で、人員配置や研修などで専門性を向上する必要があります。専門知識のある団体に委託したことなどは手段の改善として今後の方向性の一つで、高齢者や障害のある方、日本語を話せない人たちへの対応など、専門的なNPOなどとの協働の輪を広げていくことも大切です。
--------	---

4. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-2-① 交流の場や機会の提供
目的	「知縁・学縁」の形成や講座内容の充実・発展のため、受講者や地域学習館利用者同士の交流や、学びに関わる組織のスタッフ同士の交流の場を設けます。また、「学社一体」の実現への第一歩として、学校教育関係者と社会教育関係者が双方のニーズを把握することができるような方策を検討します。
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民交流大学事業 ● 成人対象事業 ● 子ども対象事業 ● 高齢者対象事業 ● 地域学習館まつり事業 ● 学習等供用施設管理運営 ● 社会教育関係団体等の育成事業 ● 地域学習館事業
取組状況 4年度	<p>地域学習館運営協議会交流会：1回（前年度：中止）</p> <p>たちかわ市民交流大学市民推進委員研修会：開催数1回（前年度：開催数1回）</p> <p>たちかわ市民交流大学市民推進委員会サポーター会：中止（前年度：中止）</p> <p>たちかわ市民交流大学市民推進委員きらきら交流会：中止（前年度：中止）</p> <p>地域学習館「まつり事業」は、全6学習館で開催</p> <p>各学習等供用施設「まつり事業」中止</p> <p>隔年度行っている「寿教室芸能フェスティバル」開催（高齢者事業）</p>
事業の成果・課題 今後の方向性	<p>【成果】新型コロナウイルス感染症対策をしながら全6館の学習館で開催できました。また、地域学習館運営協議会交流会を実施し「学社一体」の一つの取り組みである地域学校協働本部の研修及び、スタッフ間の交流を行いました。</p> <p>【課題】安全安心の確保をしつつ、開催するための方向性などを実行委員会、地運協等と連携し開催の有無の協議を事前に進めていくなどの準備が必要と考えます。</p> <p>【今後の方向性】地域の特性も持った事業を展開します。利用する団体と地域の団体等の交流を進めることで、地域の拠点としての存在感を高めます。利用者の高齢化が進むことから、異なる世代の参加を促し、幅広い世代の利用に繋がります。</p>

2. 前年度のコメントに対する取組

3年度 (抜粋) 総評	全体を通して、中止となった事業が多いことからガイドライン等の基準を設けて開催できる方向性を見出すこと、対象者を絞るなどして交流しやすい企画を検討すること、オンライン活用でどこでも交流できるような工夫を行うことなど、多角的に事業を検討していくことが求められます。
取組内容 4・5年度	各学習館の「まつり事業」は全館で実施できました。感染症対策を実施しながら通常年に近い数の事業を行いました。今後は多角的な事業の実施や緊急時でも学びを止めない方法についてオンラインの活用を含め検討をしていきます。 令和5年度には、たちかわ市民交流大学市民推進委員会サポーター会を開催しました。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>地域包括支援センター、児童館等との連携を充実させ交流したり、子どもや高齢者を対象とした講座を開催し交流することで居場所を提供できています。また、オンラインを活用した事業・講座の展開を進めようとしていること、コロナ禍にもかかわらず学習館まつりや研修会を開催できたことは評価できます。スタッフ同士が交流し、さらにより良い学びに繋げていくことに期待します。そのためにも、まつり事業等が地域に定着し、住民になじみある事業として、継続的に取り組まれることが求められます。学社一体については、手法のみが目的となるのではなく個々の取り組んでいることについて互いに必要とする情報が共有できるようにし、生涯学習を推進するという目的を明確にしながらすすめていくことも必要です。地域学校協働本部との連携に地域差を感じるため、学習館と地域学校コーディネーターとの顔合わせ的なものを年数回計画する等、連携に向けて一歩踏み出すための努力が必要です。</p>
----	---

4. 評価

評価	B	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-2-② 地域課題の共有化と解決に向けた学びの推進
目的	市民の学びあいの機会を育み、地域課題の共有化と解決に向けた市民の主体的な学びを創出するための支援が求められています。地域課題の認識を深め、解決策の検討に参画し、地域に自らが主体的に参加し協働するまでの流れを意識した講座などを充実させ、学びの成果を地域に生かし還元できていることの見える化を図ることで、社会や地域に貢献したい、社会をよくしたいと考える市民の方が一人でも多くなるよう努めます。そして、子どもから大人まで多くの市民が参加したくなるような「立川市民科」の定着とさらなる発展を目指します。
主 関 係 す る 事 業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業
取 組 状 況 4 年 度	地域課題に取り組んだ地域学習館事業としての西砂学習館の「西砂サマーイベント」は、好評を得て6年目の開催となり、多くの協力者のもと開催、定番化しています。また、社会や地域に貢献できる学びとして「立川市民科」講座や障害者理解講座、多文化共生・国際理解講座を実施しました。
事 業 の 成 果 ・ 課 題 今 後 の 方 向 性	<p>【成果】地域の子どもの夏休みの居場所づくりを目的とした西砂学習館の「西砂サマーイベント」は、対象の子どもの居場所確保だけでなく、この事業が地域に浸透しており、地域の協力体制がさらに高まり、地域づくりという観点で大きな成果をあげています。また、高松学習館の障害者理解講座についても、地域や関係団体の協力のもと、さらに幅広い事業の展開が見込まれています。地域に限定した特徴的な取り組みからのスタートですが、他の地域への刺激となっていることも大きな成果の一つです。</p> <p>【課題】引き続き、地域課題の解決に結びつくような講座として、多くの市民が参加し「立川市民科」としての定着が必要であり、さらに工夫を重ねて進めていくことが課題です。</p> <p>【今後の方向性】学びの成果を地域課題の解決に生かしていくことが、これからの生涯学習活動に求められるものであり、「立川市民科」の取組みとしても関連しています。「子どもの貧困」「少子高齢社会の到来」など、行政課題の共有化と解決に向けた取り組みを継続して進めていきたいと考えています。地域学習館運営協議会同士が連携したり情報を交換したりしながら地域課題の解決を目指します。</p>

2. 前年度のコメントに対する取組

3 年 度 総 評 (抜 粋)	各学習館の特殊性や地域性に合わせた取組として新たに生かしていくことができると考えます。また、講座の企画・実施段階では、地域課題の解決に結びつくような講座、学びの成果を地域課題の解決に活かしていく講座となるように意識することが求められます。
取 組 内 容 4 ・ 5 年 度	令和4年度では各学習館で行っている地域活性化講座の中で西砂学習館では「西砂川での災害を考える」、幸学習館では「生き延びるための避難生活とは～」など災害時での地域課題と結びつく講座を実施しました。令和5年度では高松学習館で地域防災の講座を企画しています。また、子どもの貧困に関係する講座の企画もあり、各学習館での特殊性や地域性に合わせた講座を実施していきます。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	各学習館で進捗に差が生じているようですが、地域の特性に合わせて無理のない範囲で他の学習館の実践を参考に事業を展開すると同時に、情報交換会や他の学習館へ出張講座などがあると良いと思います。西砂学習館の「西砂サマーイベント」は児童館・小学校2校他関係団体と共に住民に浸透し大きな成果をあげており、他館でも取り組むことで子どもの居場所等の全市的な課題解決の効果も期待できます。地域学習館運営協議会が地域目安箱を設置するなどして住民の意見を汲み取るような仕組みや地域の困りごとから学習課題をみつけることも可能です。講座終了後に社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターなどと連携し、自主グループを立ち上げて活動するなどの支援も考えられます。立川市民科でも地域課題と取り組みについて理解し、参加や意見交換などを行いながら主体的に社会の担い手となれる学習を推進していくことに期待します。
--------	--

4. 評価

評 価	B	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-3-① 市民とともにつくる学びの場づくり
目的	市民の力を生かして活動している各種団体と協働し、市民参加による学習機会の創出に取り組みます。市民が自ら企画できる公募型の団体企画型講座は、より多くの団体に活用していただくことで、多様な講座が展開されるようバックアップします。
主 関 係 す る 事 業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業 ●学習等供用施設管理運営
取 組 状 況 4 年 度	たちかわ市民交流大学市民推進委員会の企画する講座の中で、一部学生にも講座運営にご協力いただきました。公募型団体企画型講座では、より公平で幅広い応募が得られるよう平成31年度に募集内容を一部見直していますが、令和4年度にも新規の申込がありました。公募型団体企画型講座：11件、うち新規3件（令和3年度：同13件、うち同4件）
事 業 の 成 果 ・ 課 題 の 方 向 性	<p>【成果】市民推進委員会が学生と一緒に運営したことで、講座をつくる側での世代間の意見交換や情報共有がさらに深まり、講座運営の幅が広がりました。</p> <p>公募型団体企画型講座では平成31年度に公募内容を見直したことにより、公平な実施と新規団体が参加しやすい環境につながりました。</p> <p>【課題】学生との連携で、講座をつくる側での世代間の交流は深まりましたが、引き続き、講座受講者に若年層を呼び込むという点では課題が残ります。公募型団体企画型講座では、より多くの市民団体が講座を開催できるよう、また、さまざまな年代の方が講座に参加できるよう広報手段等を見直す必要があります。</p> <p>【今後の方向性】公募型団体企画型講座については、引き続き様々な方法による周知に努めます。また、市民交流大学事業の大きな目的の一つとして、「生涯学習からはじまるまちづくり」を推進することが挙げられていることから、講座事業の中で、「学習者から実践者へ」という広がりへの意識を持ちながら、学びの循環がしやすい企画を行います。</p>

2. 前年度のコメントに対する取組

3 年 度 総 評 (抜 粋)	公募型団体企画講座の参加者数が増えたことや学生参加型による新しい視点での課題解決を目指した事業が実施できている点は評価できます。学生の知識・知恵と行動力を活用して取り組むことにより、課題である若年層への周知・啓発にもつなげていくことに期待します。
取 組 内 容 4 ・ 5 年 度	たちかわ市民交流大学市民推進委員会の企画する講座の学生との協力については、講座実習にとどまりましたが、部会にも出席してもらい、学生との連携に努めました。令和4年度に地運協と市民リーダー、学生が連携した学習館を知ってもらうためのお祭り事業を実施しました。令和5年度も実施を予定しています。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	<p>講座企画段階から学生が参加するようになったことは評価できますが、若年層の参加につなげるためSNSを使って同世代に発信してもらうことで参加者を増やしたり、「スマホ何でも相談」におけるボランティアのように実践者として経験を積む機会となる企画も期待されます。どの学習館でも学生の登用が図れる様な方策が必要です。</p> <p>団体企画型講座は、団体が自らの学習のみに留まることなく、その学習機会を多くの市民に提供することができるもので、今後の継続は不可欠です。学習館からの声掛けを勧めるなど、まず知ってもらい、公平に機会を提供することが必要です。また、「学習者から実践者へ」の循環機能を推進させることも必要で、講座後の振り返りなどを通じて、講座を企画できる市内の人材やグループの育成を図ることも求められます。</p> <p>講座の種類によっては各地域で開催することは子どもや高齢者たちの参加促進をする上でも有効です。そのため、市民推進委員会と各地域学習館運営協議会との協働講座の促進が望まれます。</p>
--------	--

4. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-3-② 各種団体・組織などと連携した学習機会の創出
目的	市内や周辺地域には、高等教育機関や研究機関、活力ある民間企業など、連携・協働により魅力的な事業を展開できる可能性を秘めたさまざまな組織に溢れています。それらの組織と手を取りあい、多様な事業を展開します。 また、生涯学習活動は広範な分野にわたり、全庁的に取り組まれています。たちかわ市民交流大学庁内調整委員会を中心とした調整に努め、連携・協力して事業を行います。
主関連する事業	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 20%;">●市民交流大学運営事業 <li style="width: 20%;">●成人対象事業 <li style="width: 20%;">●催物事業 <li style="width: 20%;">●青春学級事業 <li style="width: 20%;">●地域学習館まつり事業 <li style="width: 20%;">●学習等供用施設管理運営 <li style="width: 20%;">●八ヶ岳山荘管理運営
取組状況 4年度	たちかわ市民交流大学事業として行われる講座などで、国立極地研究所、国立音楽大学などと連携しました。市と包括連携協定を締結した(株)コスモマーチャンダイズィングとともに、連携型の団体企画型講座を開催しました。また、平成28年度に連携・協力に関する協定を締結した東京学芸大学とは、前年度に引き続き講座の開催だけではなく、地域学習館まつり事業などのイベントに主体的にご協力いただきました。このほか、東京女子体育大学の公開講座の募集を広報たちかわやたちかわ市民交流大学情報誌「きらり・たちかわ」で、市民にお知らせしました。
事業の成果・課題 今後の方向性	<p>【成果】市内にある国の機関や企業、大学という知的資源を活用することで、より専門性の高い講座を市民に提供することができました。また、東京学芸大学との連携・協力では、学生視点での取り組みがなされ、これまでに不足しがちだった若年層へのアピールにもつながりました。</p> <p>【課題】市内の高等教育機関等は他にはない地域資源であり、高度なレベルにある知的資源であることから、これらをいかに効果的に市民に還元していくかが重要です。市民の学習ニーズと知的資源を結びつける職員のコーディネート能力が、引き続き必要とされます。</p> <p>【今後の方向性】貴重な地域資源の活用という点で、他の自治体にはない立川市独自の優位性があります。今後も引き続き関係機関との連携を大切にしながら、より市民ニーズに合った講座に結びつけ、生涯学習の推進に役立てていきたいと考えています。</p>

2. 前年度のコメントに対する取組

3年度 (抜粋)総評	団体や組織と連携を実施するには、職員の企画力やコーディネート力が求められます。大学や各種団体との連携事業が広がり続けており、多様な講座を開催することができています。
取組内容 4・5年度	引き続き国立極地研究所、国立音楽大学、東京学芸大学などと連携・協力し、講座開催やイベントにご協力いただきました。新たな団体や組織との連携を模索してありますが、講座の実施などには至っていません。 職員の企画力等の向上のため、東京学芸大学の講座の受講は引き続き行っております。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	昨年度と同様に団体や組織と連携した講座が開催できたことは評価できます。各課と市民推進委員会を橋渡しする形で事務局が一定のコーディネーター的役割を担うことができていますが、地域防災訓練など生涯学習の一環である位置づけが意識されていない状況もあります。立川市民科など、庁内全てのセクションが関わることができる仕組みを活用し、各種団体を構成する市民の意識が醸成されることが理想的です。 市内にある国の機関や企業・大学という知的資源を活用する事で、より専門性の高い講座を受講できるため、連携・協力による学習機会の創出に引き続き取り組むことが望まれます。地域を知る学習機会の創出に農業・商業等の切り口は比較的容易に繋がり易いですが、工業という分野の切り口はより一層のコーディネート力が必要とされます。立川市は、多摩地区の交通の要衝でもあり、新たに転入してきた企業などの情報をキャッチし、着実に連携先を増やしていく努力が望まれます。
----	---

4. 評価

評価	B	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						C	C	

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	II-1-① さまざまな媒体の活用による広報
目的	広報たちかわやたちかわ市民交流大学情報誌「きらり・たちかわ」などの紙媒体や、ホームページ、ツイッターなどのSNSも活用し、多様な媒体による情報提供を行います。多言語への対応や、障害のある方に対しても情報を等しく届けられるよう、関連団体とも協力して取り組みます。行政がただSNSで発信しているだけでは効果に限界があることから、情報の受け手となる市民に認知され、拡散してもらうための施策の実効性を、費用対効果を含めて検討します。
主な関係する事業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業
取組状況 4年度	「広報たちかわ」、市ホームページ、情報誌「きらり・たちかわ」（紙媒体）では原則としてすべての講座を紹介したほか、市ツイッターや市公式LINEでも講座や催しについての情報提供を行いました。「きらり・たちかわ」（音声版）については、広報たちかわへの掲載、ガイドヘルパー事業所への情報提供、視覚障害者が参加する講座等で直接勧誘を行うなど、利用者の拡大に努めました。
事業の成果・課題 今後の方向性	【成果】「きらり・たちかわ」（冊子）については、講座情報以外の特集記事やイベント記事の充実に努めたり、新たな配架場所の開拓などにより多くの方が目にしてもらえるようになりました。また「きらり・たちかわ」（音声版）については、ガイドヘルパー事業所や視覚障害者へ直接働きかけを行う等、利用者の拡大に努め、新たな希望の申し出が1件ありました。 【課題】「きらり・たちかわ」は読者数が増えるような新規読者の獲得方法、「生涯学習情報コーナー」は、立ち寄りやすい雰囲気づくり等の工夫が課題です。 【今後の方向性】若年層、高齢者、障害者といった方々の誰もが情報を入手できるような情報発信に引き続き努めます。また、正確性と迅速性を第一に取り組むと同時に、受け手に興味を持ってもらう工夫も行います。

2. 前年度のコメントに対する取組

3年度総評 (抜粋)	「広報たちかわ」、「きらり・たちかわ」、ホームページによって発信される講座情報等は、内容がわかりやすく広く市民に普及しています。特に紙媒体の広報紙を主な情報収集の手段としている人たちも多くいることから、配架場所の開拓等の取り組みは評価できます。しかし、若年層に知ってもらうための市ツイッターの発信が少なく、SNSの活用に見直しが必要と思われます。
取組内容 4・5年度	令和4年度は、コトリンクとリサイクルセンター、令和5年度は市内郵便局に「きらり・たちかわ」の配架場所の開拓ができました。また、令和4年度より市ツイッターの他、市LINEにも講座案内を始めました。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	講座以外の身近な特集などもある「きらり・たちかわ」の紙面は非常に興味深い内容になってきており、大変評価できます。数多く配布されてわかりやすく広く市民に普及しており、こうした紙による広報は着実に市民に情報を届けるには重要な手段ですが、更にSNSの充実が必要と思われます。市X（旧ツイッター）、市LINEに講座案内ができたことは、インターネットで情報収集することが多い若い世代にとって有効な取り組みであると評価できますが、「いいね」「リポスト」などの計測から拡散されているかという評価ができていない点は懸念され、効果の検証が必要です。周知を図るための事前の広報も大切ですが、一方で、実施後の広報を充実することも重要です。市役所のロビーを使って生涯学習に関する定期的な活動報告の掲示や、映像等の放映があると、効果が得られるのではないのでしょうか。
----	--

4. 評価

評価	A	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							A	A

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	II-1-② 学びの裾野を広げる情報発信
目的	市ではさまざまな学習機会を提供していますが、関心はあっても学びの最初の一步を踏み出せない人、自分にあった学びの機会を見つけられない人などが、より多く参加していただけるように、情報を届ける工夫をします。
主 関 係 する 事業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業
取組 状況 4 年度	地域活性化講座などでは、地域自治会や青少年健全育成地区委員会などにチラシの配布やPRを行いました。 子ども向け講座では学習館周辺の中学校、小学校を通して生徒や児童へチラシの配布を行いました。 講座情報誌「きらり・たちかわ」を市内各所に配架するとともに、個別の講座情報については募集チラシ・市ホームページ・市ツイッターによる周知にも努めました。
事業 今後の 成果 方向 性・課題	【成果】昨年度から始めた西砂学習館での地域学習館運営協議会の活動を紹介する「西一元氣通信」を継続して発行し、地域自治会などへ配布をお願いし、学習の機会の最初の一步として踏み出せる様に情報を届けました。また、生涯学習推進センターのツイッターアカウントを取得し講座の情報を若者世代などに広げる工夫をはじめました。 【課題】積極的に学びたい方や、関心の高い方には情報は届いていますが、勤労世帯や子育て世代の参加が少ない傾向にあるので、これらの方へ情報が届く工夫が課題です。 【今後の方向性】学習館を紹介するホームページに、開催したイベントや講座の報告を載せます。また、動画などのリンクを活用して、より多くの方に関心をもってもらえるように努めます。

2. 前年度のコメントに対する取組

3 年度 総 評 (抜 粋)	勤労世帯や子育て世代など積極的に情報を取得できない層に対して、学びの裾野を広げるには、情報を目にする機会を増やすことが必要です。具体的には、企画概要、開催周知、開催報告など段階ごとに文字や画像が主体のSNSで発信数を増やしたり、短い動画を数多く配信して忙しい方でも手軽に見られるようにするなど、短時間でイメージをつかめるようにする工夫が求められます。また、立川市役所など人が集まる場所で動画配信等できないか、配信方法についても検討を切望します。
取組 内容 4 ・ 5 年度	令和4年度後半ですがツイッターのアカウントを取得し利用方法のマニュアルや職員への周知をし、ツイッターでの配信を始めました。令和5年度は講座やイベントの発信を増やします。また、講座やイベントへの申し込みについてパソコンやスマートフォンから申請出来るような方法の検討を行います。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	サークルの発表ビデオの市公式YouTube掲載など、新たな取り組みは評価できます。動画はフィールドワークや地域紹介、子育て講座などのイメージをつかんでもらうには最適な手段であり、親子向けなど参加は難しくても動画配信なら見ることができる人もいるため、YouTubeや市役所内などでのデジタルサイネージを利用し、家庭教育や介助方法など短い動画などで情報提供や講座紹介などを行う方法も効果が期待されます。関係職員のSNSなどへの対応について課題はありますが、変化しつつあるメディアの新たな発信方法に引き続き取り組むことも効果的です。SNSや学習館の掲示板にイベントや講座の予定表を告知し、さらに講座の申し込みがスマホやパソコンからできることが望まれます。 さまざまな媒体による発信が求められる一方で、紙媒体による情報提供も欠かせません。学習館での情報誌の発行など関係者のご努力の成果が見られていますが、すべての学習館に広がるかどうかの課題もあります。チラシの連絡先を切り取って簡単に持ち帰ることができる工夫や、参加したい講座についてシールによるアンケート形式を取り入れてみるなど、ユニークな情報発信のアイデアを期待します。
--------	---

4. 評価

評 価	B	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	II-1-③ 学習相談体制の充実
目的	「市民の共学・協働に育まれたまちづくり」を推進していくため、専門的な知識・技術の習得のみならず、地域に密着した人的ネットワークを構築できる職員の育成や、生涯学習に関する相談・助言体制の強化を図ることが求められています。職員は、学習のコーディネーターとして学習情報の提供を通じた市民ニーズの再発見を行い、市民が抱える課題を学びと結び付け、学習を通して実際に解決できるよう支援していきます。
主な関係する事業	●市民交流大学 ●成人対象事業
取組状況 4年度	生涯学習情報コーナーでの学習相談391件(前年度：同355件) (社会教育関係団体関連205件、生涯学習指導協力者(市民リーダー)関係10件、施設案内38件、学習相談4件、その他134件) 課内研修：生涯学習関係者研修1回(前年度：同1回) 事業連絡会2回(前年度：同2回)
事業の今後の成果・課題の方向性	【成果】相談窓口として、各学習館と生涯学習情報コーナー(女性総合センター・アイム1階)があることで、生涯学習に関する情報を求めている市民に対し、情報提供することができました。 【課題】情報コーナーは女性総合センターアイムにあり生涯学習の拠点とする学習館ではないため市民の学習に関する困り事や地域での課題相談ができる場所としての認識が広まっていないのが現状です。 【今後の方向性】地域学習館及び生涯学習情報コーナーが、課題解決に向けた助言ができるような相談窓口として機能し、かつ広く周知することが理想です。引き続き、研修などで職員の能力向上に向けた取り組みを続けるとともに、相談窓口としての機能をどのように持たせるか検討していきたいと考えています。

2. 前年度のコメントに対する取組

3年度総評 (抜粋)	コロナ禍に限らず従来の手法より一歩進んだ相談体制を整え、各施設へ足を運ぶことができない方などに向けて、市の生涯学習サイトにQ&Aを公開したり、関連動画での紹介を積極的に行ったり、オンライン相談を実施するなどの工夫が求められます。
取組内容 4・5年度	動画の配信等、オンラインの活用については著作権や個人情報、情報の正確性など様々な課題があります。令和4年度はデジタル関係の担当(プロジェクト)を立ち上げる検討を行い令和5年度にデジタル担当を発足させました。デジタルデバインドなどの問題もある中、デジタルでの発信の必要性を含め情報発信の方法などの検討を進めています。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	学習相談ができることや、相談者にどのような効果がもたらされるかが、市民に周知されていない点は課題です。相談者が少ない理由について工夫や再考の必要を感じます。入り口への看板設置、市の広報やホームページでの相談事例紹介、動画での事例紹介などが急務です。 特定の場所と時間で相談者を待つ相談体制には限界があり、様々な団体活動の情報冊子などが手軽に手に取れるだけでなく、学習館等のWi-Fi機能を活用し、自宅から利用できるようオンラインで対応するなど、様々な手法での検討が待たれます。また、相談事の全てが繋がっていく様なネットワークをしっかりと構築し、情報の還元につながるとうよいと思います。単なる情報提供窓口にと留まらず、市民が抱える課題を学習を通じて実際に解決するようなコーディネーター役を果たせる職員を配置するなど体制の充実が必要です。
----	--

4. 評価

評価	C	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-1-① 学びにかかわる市民や組織との協働
目的	これまで市では、たちかわ市民交流大学市民推進委員や地域学習館運営協議会委員、生涯学習市民リーダーをはじめとして、各種地域団体や施設利用団体とともに、それぞれが持つネットワークを生かした地域人材の把握・活用が行われてきました。今後も引き続き、さまざまな主体が互いに協働しながら生涯学習施策を推進し、市民力を生かしたまちづくりの実現を目指します。
主 関 な 事 業	<ul style="list-style-type: none"> ●社会教育関係団体等の育成事業 ●社会教育関係団体登録制度事務 ●成人対象事業 ●生涯学習市民リーダー登録制度事務 ●学校支援ボランティア事業 ●地域学習館事業
取 組 状 況 4 年 度	生涯学習市民リーダー登録人数：延べ127人（前年度：延べ120人） 講師フェア来場者数：延べ393人（前年度：延べ707人） 学校支援ボランティア登録者数：92人（前年度：80人） たちかわ市民交流大学市民推進委員研修会：開催数1回（前年度：開催数1回） 生涯学習関係者研修会：開催数1回（前年度：1回）
事 業 の 成 果 ・ 課 題 性	<p>【成果】生涯学習市民リーダーの「みんなの講座」を10回開催した中で、市民リーダーが講師を務める社会教育関係団体サークルへ複数紹介できました。また、生涯学習市民リーダーの作品展や体験講座、パフォーマンスをし市民や他組織に周知する講師フェアを実施しました。</p> <p>学校支援ボランティアについては、説明会を開催し登録者の増につながったことにより、ボランティアのすそ野を広げることができました。</p> <p>【課題】地域活性化講座やシルバー大学等では生涯学習市民リーダーが活用されていますが、ほかの団体との協働を広げていく必要があります。地域学習館等のイベントなどでの周知を積極的に進めていく検討が必要です。</p> <p>【今後の方向性】成人対象事業等で市民リーダーの活用が進むように、地域学習館との交流の場を設けるなど、生涯学習市民リーダーと地域組織とで協働ができるよう努めてまいります。</p>

2. 前年度のコメントに対する取組

3 年 度 総 評 （ 抜 粋 ）	学社一体の取組として、市内の小中学校での生涯学習市民リーダーやPTAをはじめとした社会教育関係団体、学生参加によるボランティア活動などの協働について広く周知するなどし、学校との連携・協働の裾野を広げていく必要があります。
4 ・ 5 年 度 取 組 内 容	令和4年度では、小学校で市民リーダーが講師とし図画工作の授業を行うなど学校での活用がありました。また、高松学習館では大学生と市民リーダー・地域学習館運営協議会の協働で子どもやその保護者に学習館を知ってもらうことをコンセプトに「夏の思い出たかまつり」「冬の思い出たかまつり」を実施しました。令和5年度も「たかまつり」を実施する予定です。 また、学校支援ボランティア説明会を開催し、ボランティアの裾野を広げることができています。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	市民リーダーは市民推進委員会・シルバー大学等で活用されていますが、講座開催には相応のスキルが必要なため、人材の把握にとどまらない支援が必要です。「たかまつり」など、市民リーダーの存在感を示す取り組みは評価できます。各種地域団体や市民リーダーのこれまでの活動を更に多くの市民が理解できるように支援する必要があります。市民リーダーの作品展や実践報告のまとめ文書、映像等で広く周知し活用を図っていく工夫のほか、社会福祉協議会をはじめ、各種団体や組織にも市民リーダーを活用していただき、また市民から市民リーダーを推薦していただけるような仕組みづくりの取り組みも期待されます。市ホームページでは名簿がPDFでもあり、分野ごとの探し方が難しいように感じます。学校支援ボランティアについては、年2回募集するなど登録者の増員を図る工夫や、具体的にどの様な方が必要なのか、児童との接し方など学校に入る場合の心得などが必要となるので、学校の要望を汲む工夫が必要です。
--------	---

4. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
			評価				B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-1-② 地域を担う将来世代を育むしくみづくり
目的	それぞれの地域によって異なる特色と課題をどのように学びとして取り上げ、共有し、解決に向けて取り組んでいくのか、そのしくみづくりに取り組みます。地域の学習拠点である地域学習館においては、運営協議会委員がこうした取組の計画や運営、評価に積極的に関わられるようしくみを整えるとともに、自治会や社会福祉協議会との連携・協働を図り、出前講座の活用を促すなどして、地域の中での学習を支えます。
主なる事業	●地域学習館事業 ●成人対象事業 ●地域学習館事業 ●地域学習館まつり事業 ●催物事業 ●学習等供用施設管理運営 ●社会教育関係団体等の育成事業 ●学校支援ボランティア事業 ●歴史・民俗普及活動事業
取組状況 4年度	地域活性化講座：開催数51件、参加者数1771人（前年度：同23件、同920人） 歴史民俗資料館体験学習会等：開催日数13日、参加者数258人（前年度：同12日、同213人） 昔の道具体験：実施校8校（前年度：同10校） 六面石幢の修復事業
事業の今後の成果・課題 方向性	【成果】地域の特色や課題を踏まえた講座である、地域活性化講座や歴史（地域学習館運営協議会主体として企画する講座等）を実施することにより、地域の課題解決へ向けての仕組みづくりは定着化しつつあります。また、将来世代の育みとしては、地域学校協働本部の「地域学校コーディネーター」や「学校支援ボランティア」が子ども達へ支援したり、歴史民俗資料館事業では郷土学習への支援を行いました。 【課題】各学習館では講座等の事業を通し、地域の拠点として各団体との連携・協働を進めていき、地域特有の課題の把握や将来世代の育成を進めていく必要があります。学習等供用施設の管理運営を行う管理運営委員会のメンバーが高齢化している状況がみられます。 【今後の方向性】地域と学校との連携を進め、将来世代を育む取組みとして、地域学校コーディネーターと地域学習館（運営協議会）との繋がりを広げ「学社一体」を推進するための地域づくりを進めていきます。また、学校で必要な地域資源を自治会や社会福祉協議会などと協働し派遣をし、学校教育と社会教育を結び地域の学習の拠点として地域学習館が活用できる取組みを進めていきます。

2. 前年度のコメントに対する取組

（抜粋） 3年度 総評	地域の担い手は限られた者ではなく、すべての世代が将来の担い手であり、本質的な学びにより自らの力で取り組むことができ、多様な人材が参画可能なユニバーサルデザインとしてのしくみづくりを意識する必要があります。将来世代を育むために子育て中のパパを対象とした講座など、時代に合わせた企画を行い、さらなる充実を図ってください。
取組内容 4・5年度	パパ対象など子育て中の父親中心での講座だと、参加する側のハードルが高く感じるのか、参加人数が少なくなる傾向のため、子ども事業で親も参加可能や夫婦一緒に受けられるなどの工夫をしています。子どもとの参加事業では「宇宙の学校」や「おやこ社会科クラブ」など父親でも興味が湧き、参加したいと思える事業を実施しています。また、地域活性化講座では子どもと参加のできる事業を実施しています。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	地域学校コーディネーターと地域学習館運営協議会が連携を密にすることで、地域を核とした学校を支える体制を創り、子どもたちの学びや生活を応援すると同時に、地域住民の経験や知識を活かす場ができます。学校支援ボランティアの活動にも更に目を配るといったことが必要ではないかと思えます。家族全員が楽しめる体験型の講座などを積極的に提供し、家族の絆の希薄化に歯止めをかけたいものです。パパ・ママといった呼び方での特定の層への呼びかけも有効ではありますが、多様な家族形態があることも念頭に入れ、ダイバーシティな視点で真に多様な人が参画可能なしくみづくりを行ってください。継続して若い世代を育む工夫をお願いします。各学習館の学習コーナーで勉強する中・高校生を春休み・夏休みの企画・学習館まつりに巻き込む工夫や、若い層の資格取得者など次世代を担う市民リーダーの掘り起こしを行うほか、多くの収蔵品がある歴史民俗資料館の見学や学校教育における立川市民科の取組みを通して児童・生徒の生涯学習への理解促進を進めるなど、新たな取組みも必要です。
----	---

4. 評価

評価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-1-③ 「立川市民科」の推進
目的	「立川市民科」は、他の自治体には見られない特徴的な取組です。特に学校教育における取組は先進的で、既に一定の成果が出ています。一方で、生涯学習における「立川市民科」の取組は黎明期にあります。定着化とさらなる発展に取り組めます。また、「立川市民科」の考え方と方向性を市民にわかりやすく発信するよう努めます。
主 関 係 す る 事 業	●成人対象事業
取 組 状 況 4 年 度	立川市民科講座：開催日数5日、参加者数51人（前年度：同9日、同107人） ○本を持たない二宮金次郎像 ○こころを傾けて聴こう～傾聴のおはなし～ ○心とからだ、環境にやさしい手作りせっけん
事 業 の 成 果 ・ 課 題 の 方 向 性	【成果】郷土学習を通してまちを知り、地域に愛着を持ち、地域に貢献する立川市民科の講座として、「本を持たない二宮金次郎像」などの講座を実施しました。また、第八小学校の子ども達にもなじみのある二宮金次郎像であり戦争遺構であるため、学校への配布が出来るようにA5版のミニブックレットするなど、工夫をし制作しました。 【課題】DVDやブックレットの作成は一人の職員のスキルによって可能となっている部分がみられません。「立川市民科」が定着し発展させるためには、今後も継続して取り組んでいく必要があります。 【今後の方向性】職員へのブックレットの作成研修を行います。また、「立川市民科」に即した講座を実施するとともに、地域学習館のイベント等においても「立川市民科」の周知に努めます。

2. 前年度のコメントに対する取組

3 年 度 総 評 （ 抜 粋 ）	立川市民科の内容で取り上げる地域特性について、語れる人が年々減っていくことが予想されるので、後継者の養成を意識した講座を企画するなどの配慮が必要です。
取 組 内 容 4 ・ 5 年 度	立川市の地域特性について語られる方が高齢のため、令和2年度から「立川を歩く」3部作でブックレットとして残すことにより将来へつなげる事業を行いました。令和4年度も「本を持たない二宮金次郎像」のブックレットを作成しました。今後、語れる方を映像に残すなど将来にわたって立川市の地域特性を引継げる方策を検討します。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	ブックレットやDVDを作成することは学習成果を次の学習資源としてつなげていく素晴らしい取り組みで、今後も立川市の地域特性を語れる方を映像で残したり、それぞれの地域ごとの歴史的事象に的を絞った資料の収集・保存など、更に充実させていく必要があると思います。こうした作業においても市民の参加・参画を促し、職員と協働して取り組むよう検討をしてください。また、DVDの短縮版をYouTubeで発信するなどして、活動をより広く知ってもらう工夫が求められます。 市民が主体的に行動する社会の担い手となるまでが「立川市民科」だという前提に立った取り組みをお願いします。具体的には、地域に関する課題を発見して解決するための提言やボランティア活動、地域で開催されている市長や市議会議員との懇談会を紹介するなどが考えられます。立川市民科に対する職員の方のコーディネート能力を向上することも重要です。一般には「立川市民科」と言われて、学校教育・生涯学習どちらか分からない部分があるので、明記すると良いと思います。
--------	---

4. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							B	B

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-2-① コーディネーターとしての職員の養成、研修体制の強化
目的	職員のコーディネート力は、今後の地域学習館のあり方を考える上で無くてはならない能力であり、積極的な能力開発・育成が求められています。各施設に配置された職員が、利用者や地域団体との情報交換を通して、地域で活動する団体の活動内容や活動の核となる人材を把握し、その情報を必要とする人と結ぶことができるよう、職員のコーディネート力のより一層の向上に努めます。また、具体的な地域課題を学びにつなげる企画力、市民と協働して学びを展開する実践力を研修などを通じて養っていきます。
主 関 な 事 業	●生涯学習活動推進事業
取 組 状 況 4 年 度	平成29年度から始まった、東京学芸大学で開催された全7回の「コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座」を生涯学習推進センター職員4名が受講しました。そのほか、学んだ職員が他の多くの職員に報告を行ったり、関係者と情報共有する場を設けるなど、職員のコーディネート力を高める実践の場を設けました。
事 業 の 成 果 の 方 向 性 ・ 課 題	【成果】東京学芸大学の「コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座」受講は6年目になり延べ20名が受講しており、職員の能力向上に大きく寄与しているものと考えています。また、学びの共有の場を設け、職員が学んだことを他の職員等へも展開しました。 【課題】研修を受講した職員が人事異動で他課に移るなど直接の成果が得られない場合があります。 【今後の方向性】今後も東京学芸大学の公開講座に生涯学習推進センター職員をはじめ市職員を派遣するとともに、課内研修をはじめ、職員間でも自身が学んだことの還元や共有をすすめ、コーディネート力の向上を目指します。また、社会教育主事講習の受講を積極的に進め、知識や技術、学習成果を活用し、生涯学習を推進します。

2. 前年度のコメントに対する取組

3 年 度 総 評 (抜 粋)	研修を継続的に行っている点は評価できますが、研修の成果が個人に留まることがないように職員間の共有のための還元研修の機会を設ける必要があります。また、他の講習や研修への参加、人員体制の強化など地域学習館の職員が学んだことを十分に発揮できるような環境や体制づくりも必要です。
取 組 内 容 4 ・ 5 年 度	令和4年度は東京都生涯学習課との共催事業として実施した人権事業において、職員が事業の説明や検証など報告会を行い市職員の多くが参加いたしました。また、地域学習館運営協議会交流会において（地域学校協働本部の職員が講師となり、）地域学習館運営委員や職員また、関係者と情報の共有を行いました。令和5年度も職員自身が学んだことを還元し共有する機会を作ります。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	職員のコーディネーターとしての研修が継続されていることは評価できます。コーディネーターとしての力量は、事業の企画・運営や市民の学習相談対応、関係団体・組織との協働などの「実践」と、その実践活動をふり返る「省察」を繰り返すことによって形成されます。組織的に力量を育成し維持していくことと、事業の質を高めることを一体的にとらえ、すべての職員が学びあうことのできる力量形成のあり方を検討し、着実に取り組んでください。ブラッシュアップできる体制作りも必要です。また、研修で学んだことを市民と協働して多くの人と共有する交流事業や、庁内全体を対象とした還元・周知を進めてください。ただし、学習館の現在の人員体制では、多くを求めるのは酷であり、人員の補充を求めます。『また、実質的にコーディネーター役や講座の企画を担っている会計年度任用職員が、将来を見通して継続的に働くことが出来る環境を整えることも求めます。』 さらに、社会教育士の採用や、職員の資格取得の後押しをして、生涯学習の充実を図って欲しいです。生涯学習という分野を担当する方には、この事業の使命と役割の重大さを深く認識し、情熱を持って担当していただきたいです。職員等が普段から、人と人を結びつける視点で人材・人脈作りに努めることが、ひいては地域学習館の活性化にも繋がります。市民が抱える課題を学びと結び付け、学習を通じて実際に課題を解決していくようなコーディネーターとなってください。
--------	---

4. 評価

評 価	C	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-3-① 学習施設の充実と利便性の確保
目的	将来にわたって生涯学習・社会教育を推進していくためには「学習の場の確保」は必須条件です。複合化などにより施設のかたちが変わるとしても、学習施設が持つ「機能」については確実に維持し、市民の学習活動が後退することのないよう、限られた施設や資源を有効活用する方策を検討します。
主な事業	●生涯学習推進審議会事業 ●地域学習館維持管理 ●学習等供用施設管理運営
取組状況 4年度	砂川学習館／地域コミュニティ機能複合施設（仮称）の建替え設計及び滝ノ上会館中規模改修工事の設計を行うとともに、錦学習館の中規模改修工事を行いました。
今後の方向性 事業の成果・課題	【成果】建替えや中規模改修の設計および改修工事を、施設利用者・周辺住民の声を聞きながら行うことにより、学習施設の機能が維持されるものとなりました。 【課題】Wi-Fiを利用した講座の実施などITの活用が必要です。 【今後の方向性】砂川学習館／地域コミュニティ機能複合施設（仮称）への建替え、西砂学習館及び滝ノ上会館の改修工事に続き、令和7年度のこぶし会館改修工事に向けた準備を進めます。オンラインでの講座開催を促進していきます。

2. 前年度のコメントに対する取組

3年度 （抜粋） 総評	複合化が学習施設に及ぼす影響がないように利便性と充実を図りながら計画を進める必要があります。施設利用者の意見を聴取し、より多くの市民が利用できるように質の向上に向けて、十分な議論が行われることに期待します。全学習館にWi-Fi環境が整備され、利便性は向上していますが、活用方法の方向性が未計画である点が課題で早急に対応する必要があります。今後は学習等供用施設においても予約方法のIT化やWi-Fiの設置を検討する必要があります。
取組内容 4・5年度	令和4年度は、砂川学習館・地域コミュニティ機能複合施設（仮称）について、地域学習館運営協議会や施設利用者・周辺住民の意見を聴取し、要望を設計に生かした設計概要説明会を2回行いました。令和5年度は工事説明会を2回行い、施設利用者・周辺住民の理解や協力を得ながら工事を進めます。また、オンラインによる講座の開催を企画するほか、柴崎会館・滝ノ上会館にWi-Fiを設置する予定です。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	砂川学習館の設計概要説明会による市民からの意見聴取とその設計への反映、一部会館へのWi-Fiの設置、オンライン会議システムの配備・運用など評価できます。 行政の縦割りの弊害が現れないよう連絡会設置の具体化など、先行事例を参考に検討する必要があります。砂川学習館以外の学習施設についても、利便性の向上と同時に地域住民の皆様の学習拠点と交流の拠点として、いかに使いやすくなるか、提供する側の努力に期待しています。また、今後の建て替えに際しては、高齢の方々の不便さは計り知れないものがあるため、設計段階から他部局も含めた説明会を開き市民の意見を生かした設計が望まれます。 Wi-Fiの設置は引き続き拡充を進めつつ、今後は、様々なオンラインシステムの活用事例を増やす取り組みや事例共有が重要となります。どの学習館でも確実に利用できる具体策を明示し、講座等に関して受講者の便宜を図っていけるよう取り組むほか、維持管理も徹底し、有効に活用されることを望みます。学習館の利便性の向上については、予約まではオンラインで可能ですが本予約は現場に足を運ばなければならない現状を改善することを要望します。
----	---

4. 評価

評価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の 評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-3-② 公平で柔軟な施設利用の推進や学習施設の連携促進
目的	<p>地域学習館などの学習施設では、利用者の利便性の向上と公平性の確保を目的として、パソコンや携帯電話・スマートフォンなどから施設の空き状況確認や仮予約ができる「施設予約システム」を導入しており、幅広い地域からさまざまな年齢層の方が利用しています。</p> <p>これに対して学習等供用施設は、指定管理者が窓口で直接受け付ける申込方式を採用し、電子機器の利用に不慣れな方の学習機会を確保しており、地域住民の身近な学習施設として親しまれています。また、地域学習館や学習等供用施設は、学校を筆頭に、他の学習施設や児童館、図書館、歴史民俗資料館など、学びやまちづくりに関わる多様な施設との連携を進めます。</p>
主 関 係 す る 事 業	●生涯学習活動推進事業 ●地域学習館事業 ●地域学習館維持管理 ●学習等供用施設管理運営
取組 4年 度 状 況	<p>施設予約システムを維持管理し、オンラインによる施設利用申込を地域学習館、女性総合センター、子ども未来センター、市民会館、体育館で実施しました。</p> <p>施設予約システム：利用者登録12,522件（前年度：利用者登録12,090件）</p>
事 業 の 成 果 向 ・ 課 題	<p>【成果】パソコンや携帯電話、スマートフォンなどから施設の空き状況や仮予約ができる手軽さから市公共施設の予約手続きの利便性が図られています。誰でもアクセスできるシステムかつ抽選による予約方式を取り入れていることから、公平性が確保されています。</p> <p>【課題】各施設の業務用及び利用者用端末が設置から長年経ったことで、機器故障により一時的にシステムを利用できない問題が発生しています</p> <p>【今後の方向性】11館ある学習等供用施設は、地域性により利用状況に差がありますが、市内社会教育施設の有効利用や事業連携につなげていけるようイベント等の情報共有を進めます。システム更新や機器更改の検討などシステムのさらなる改善に向けて検討を実施してまいります。</p>

2. 前年度のコメントに対する取組

3 年 度 総 評 (抜 粋)	インターネット上で行えるのは仮予約までとなるので、利用者の利便性や社会情勢に配慮した運用を検討していくことが求められます。学習等供用施設との連携については、地域学習館とイベント等の情報共有すらできておらず、どちらかの会議等に参加して連携を深める場面をつくるなど具体的な検討を行う必要があります。
取組 内 容 4・5 年 度	令和4年度は機器の維持管理やシステムの管理など、システムの安定供給に努めてまいりました。令和5年度はシステムのさらなる改善に向け検討してまいります。学習等供用施設との連携については、寿教室の開催やまつりでの交流など日常的に連携できた館もありますが、地域によって差がありました。学習等供用施設管理運営委員会に負担のない範囲で、連携を深める場面の創出を検討してまいります。

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総 評	<p>システム老朽化など、転換点に来ています。各学習館に予約用のタブレットを用意して老朽化対策を採るなど、持続性を意識した変更なども検討する必要があります。機器の維持管理やシステムの管理などの安定供給を更に進めさせていただきたいと思えます。インターネット上で行えるのは仮予約までとなりますが、本予約や取り消しもインターネットでできるよう検討を望みます。ただし、インターネットでの予約は便利な反面、キャンセルがしやすく、他の利用者の迷惑となることもあります。また、施設の利用に関しても、単なる利用者になってしまい、使用態度に問題が起きることも予想されます。その施設や事業についても関心を持って情報を提供し、学習館まつりへの参加なども求めることで、参加意識をもつよう働きかけることも可能ではないでしょうか。</p> <p>地域学習館と学習等供用施設のイベント等の情報共有などは確実に実施してください。地域学習館の改修工事等の際は、学習等供用施設との連携がより必要と感じます。連携が深められる具体的な策等の明示を求めます。この連携が更に進めば地域の生涯学習機会も更に充実してくると期待しています。学習等供用施設の利用者は概ね高齢者が多いように見受けられ、使用内容、場所が近い等を学習館と比較し予約しやすい方を選んでいくように思います。</p>
--------	--

4. 評価

評 価	C	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							C	C

立川市第6次生涯学習推進計画令和4年度取組状況の進捗評価表 (令和5年度実施)

1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-3-③ 施設の維持管理
目的	<p>地域学習館や学習等供用施設は、いずれも長い歴史と伝統を持って地域に定着しています。一方で、施設や備品は歴史に相応して著しく老朽化が進んでおり、適切に維持管理しなければ、学習活動を制限したり疎外したりする一つの要因となりかねません。それだけでなく、災害時にはすべての地域学習館や学習等供用施設が避難所として利用される場合があります。市民の安心・安全を確保するためにも、施設の老朽化対策は喫緊の課題です。</p> <p>市民が安心して施設を利用することができるよう、公共施設再編の動向も注視しつつ、適切な維持管理に努めます。</p>
主関連する事業	<p>●地域学習館維持管理 ●学習等供用施設管理運営 ●歴史民俗資料館施設管理</p> <p>●古民家園施設管理 ●八ヶ岳山荘管理運営</p>
取組状況 4年度	<p>西砂学習館のトイレ換気扇修繕や、各学習館の照明器具、自動ドア、水栓等の修繕を行うとともに、学習等供用施設では、故障したエレベーターや自動ドア、消防設備保守点検で指摘を受けた誘導灯設備のほか、傷んだ畳やトイレの漏水等の修繕を行い、利用者の安全確保に努めました。また、歴史民俗資料館ではエレベーターの改修工事及び新館の非常用電灯の修繕、古民家園の文化財建造物の修繕等を行いました。</p>
事業の成果・課題 今後の方向性	<p>【成果】非常用電灯や誘導灯設備、自動ドアやエレベーター等の修繕を実施したことによって、施設の適切な維持に寄与することができました。</p> <p>【課題】ほとんどの生涯学習関連施設は築30年以上で老朽化が進んでいることから、雨漏りや漏水、空調機や自動ドアの故障等の緊急的な修繕を優先せざるを得ないため、施設的美観の維持や機能をレベルアップするような工事等ができないことが継続的な課題です。また、歴史民俗資料館は貴重な文化財の保存と展示等活用を行う施設であり、施設の老朽化に加え飽和状態にある収蔵資料を適切に保存する環境等を整えていく課題があります。</p> <p>【今後の方向性】生涯学習の地域拠点として、また、発災時の避難場所として、利用者の安全性や利便性等を最優先としたうえで、施設や設備の経年劣化に対し、計画的に修繕等を進めます。今後は、砂川学習館／地域コミュニティ機能複合施設（仮称）への建替えと、西砂学習館・滝ノ上会館の改修工事を行うとともに、こぶし会館の改修工事に向けた準備を進めてまいります。</p>

2. 前年度のコメントに対する取組

3年度 （抜粋） 総評	<p>災害時の拠点となる施設も多いので、定期点検、修繕計画、時代の求めるバリアフリー等、利用者の安全・安心に対する一層の配慮が求められます。改修工事を行っても維持管理で様々な問題を抱えている施設があることから、あらかじめ予算や人員の確保、市民の要望など、時代の求める施設になるよう事前調整を行ってください。</p>
4年度 ・ 5年度 取組内容	<p>令和4年度は日常的な維持管理に伴う修繕のほか、錦学習館の中規模改修工事を行いました。令和5年度は西砂学習館・滝ノ上会館の中規模改修工事、幸学習館・錦学習館のエレベーター改修工事、歴史民俗資料館の屋根防水改修工事、八ヶ岳山荘の照明等改修工事など計画的に実施してまいります。</p>

3. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>計画的に各施設の修繕や改修が進められており、評価できます。メンテナンスを怠らず、引き続き適切な維持管理をお願いします。将来的には人口減少が予想されるため、公共施設再編において社会教育関連施設を聖域にせず、持続可能な生涯学習の場の確保を図ってください。他の地域施設との融合により生涯学習の広がりを期待しますが、慣れ親しんだ良さがあるのか複合化の不安も多いようです。学習館や学習等供用施設が避難場所として開放される回数も増えてきており、気候変動などによる大型災害の発生なども危惧されていますので、各施設における災害対策にも充分配慮し、その際に何が 필요한のか具体的に検討し、常備して欲しいものです。</p>
----	--

4. 評価

評価	B	<p>S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある</p>	過去の	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
						B	B	